

体験の風をおこそう
2021 12/4 SUT. 10:00-15:00

わかさわんクラフトマルシェ

体験ブース

- 勾玉作り (若狭三方縄文博物館)
- レザークラフト (福井県立三方青年の家)
- 丘パッチ作り (福井県海浜自然センター)
- 松ぼっくりアート (福井県山里海湖研究所)
- 種のマグネットアート (園芸LABOの丘)
- 木工体験 (嶺南興興三州農林部)
- 野菜スタンプ (かみなか農業舎)
- オリジナル絵本作り (まるまデザインワークス)
- 竹細工 (ハッちゃん家族旅行村)
- 組子細工チャーム作り (Domoto Kougei)
- 一筆画 (いけばな一光流)
- おもちゃの病院 (おもちゃの病院 鶴の道)
- 絵本のみよきさせ (読み聞かせボランティアにじいろ)
- ブックシェアリング ~読みおえた本の交換会~ (あそびのオリンピック「遊びリンピック」)

飲食ブース

- Café MIROKU
- marQ coffee
- たがらす我袖倶楽部
- 田庭 ひびき家
- 自然の家食堂 (コーストキッチン(株)有明店)

日時 令和3年12月4日(土)10:00-15:00 **場所** 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市田島区大浜)

参加費 1人200円(傷害保険料) *飲食ブースは別途料金が必要です

対象 福井県内在住のご家族 40家族150人程度

お申込 WEBフォームよりお申込みください
*11/26(金)13:00まで *応募者多数の場合、抽選といたします。
URL: <https://www.niye.go.jp/entry/event/entry/2021>

主催: 国立若狭湾青少年自然の家 (企画・運営) 福井県「体験の風をおこそう」実行委員会
担当: 須藤(すとう)・伊藤(いとう) 0770-54-2100 Mail: wakasawan-ji@niye.go.jp



開会式



読み聞かせ



森の工作



野菜スタンプ



おもちゃ病院



一筆画年賞状作り

1. 目的

- ・親子を対象とし、クラフト活動、遊びリンピック活動、読書活動等を通して、健康増進と親子関係の向上を図る。
- ・日常生活に体験活動を取り入れられるきっかけづくりとする。
- ・若狭地域の団体を中心に招聘し、各団体同士が連携するきっかけづくりとする。
- ・出展団体と参加者、職員と参加者とが交流をする中で、多様性に触れ、親近感を抱き、今後の様々な連鎖反応に期待が持てるようなきっかけづくりとする。

2. 参加実績

福井県在住 54 家族 163 名 (未就学児 32 名、小学生 59 名、中学生 1 名、保護者 71 名)

※申し込み後キャンセル 13 家族 50 名

3. 日程(日帰り)

- ① 受付
- ② 開会式
 - ・所長あいさつ、若狭ロータリークラブあいさつ、諸連絡
- ③ ブース開始
 - 読み聞かせ: 11:00~11:30、13:10~13:40、14:00~14:30
 - 遊びりんピック: 11:00~11:40、13:30~14:10
 - ※昼食は適宜 12:00~13:00の間は体験ブース中止
- ④ ブース終了、流れ解散

4. 参加者の声（アンケートより一部抜粋）

◇イベント全体に対する満足度

- ・64 家族 200 名程度と参加者を決めていただいているおかげで、ごった返して混み合うこともなく、子供も私もとても良いクラフト体験をさせていただきました。人数もちょうど良く、1日かけてゆっくりとたくさん体験することができました。
- ・やりたい事がありすぎて時間が足りませんでした。

◇プログラム（体験ブース、飲食ブース）に関すること

- ・大きい子も小さい子も体験を選んで楽しめたのが良かったです。
- ・昼食を購入できるだけでなく、安く美味しく、イベント感を味わえて大満足です。地元のお店の出展が嬉しかった。

◇運営に関する満足度

- ・参加人数が多いのにそんなに密にもならず、消毒もいろんな場所にあって、バイ菌のイラストも子供にわかりやすく、コロナ対策がしっかりされていて安心して楽しめました。

◇職員の対応に関する満足度

- ・スタッフの方が多くいて皆親切に接して頂いたのでイベントを楽しめました。

◇その他

- ・目移りして迷ってしまうくらいやりたい！と思うことがたくさんあったようです。思っていた体験が時間切れで出来なかったので、作戦が必要やったなど言っていました。
- ・基本的にものづくりが親子で好きなので、改めて子供の手先の器用さを発見したりできて、とても楽しかったです。
- ・興味を持ったブースでやり始めるととても集中して取り組んでいた。
- ・娘は絵本のところが気に入っていましたが、絵をつなげてストーリーを考えるなど、親が思っていた以上に広がりがあり、良かった。
- ・体験中はすごく楽しそうに集中していました。家に帰ってからも、自分でミニ絵本を作ったり、持ち帰るときに壊れてしまった作品をグルーガンで修理したり、創作意欲が刺激された。
- ・子供が物作り（勾玉）で自分なりに上手くでき、すごく自信がついたようです。

5. 成果

- ・感染症の状況を考慮し、募集対象を福井県内在住の家族に限定した。受付開始後に状況が好転したため受け入れ人数を増やし、申込者すべてを受け入れた。参加者からは、「参加人数もちょうどよく、スムーズに色々なブースを回れた。」といった声が聞かれた。次年度企画の際の募集人数の参考にする。
- ・参加理由に「子どもにいろいろな体験をさせたかった」という意見が複数あり、イベントの機会を求めていることがうかがえる。親子で様々な活動に参加したことで「親子関係の向上」「日常生活に体験活動を取り入れられるきっかけづくりとする」という目的を達成できたと考えられる。
- ・参加者からは、ブースの内容、事業の運営、職員の対応など、満足の声が多く挙がった。
- ・出展者を嶺南地域のみで構成し、地域密着の事業にすることができた。参加者からは、出展者の存在や取り組みを新たに知ることができたという声が寄せられた。参加者と出展者・職員の交流も見受けられ、事業の目的を達成できたと考えられる。

6. 事業運営のツボ・工夫・反省

○嶺南地域の出展者を募集し、感染対策を取りながら運営し、事業の目的を概ね達成できた。

○当日の受付スペース混雑回避のため、健康状況調査は従来の紙媒体の他に、WEBでも回答できるように設定し、新たな受付方法を試験導入できた。

△昼食休憩のための時間を設定したが、昼食場所の一時的な混雑、昼食休憩の時間には体験ができなくて残念だったといった声も挙がった。次年度の運営方法については検討が必要である。

△出展者同士での交流が時間やスペースの都合で一部の範囲に限定された。出展者同士の交流を促す時間や場所の設定が当日や事前にできれば各団体の連携や今後の繋がりに施設が寄与できる。

△開会式で職員や出展者を紹介できる場があれば、参加者はより興味を惹かれ、多様に触れる、親近感を抱くといったきっかけになると考える。次年度は感染対策に考慮しながら場を設けたい。

△多くの体験活動の機会を提供するという観点から、開催回数は1回でいいか検討する必要がある。